

[引用・参考文献]

- 荒木清花・高野紗奈江 2022「山内清男が遺した品々」『奈良文化財研究所紀要2022』奈良文化財研究所、50-51頁
- 井口直司 1994『縄文時代研究辞典』東京堂出版
- 井口直司 2012『縄文土器ガイドブック－縄文土器の世界』新泉社
- 井口直司 2012『縄文土器ガイドブック－縄文土器の世界』新泉社
- 石岡憲雄 1983「撫糸文」加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文土器の研究』5、雄山閣、191-202頁
- 石田由紀子 2007「縄目文様を読む－縄文時代後期の西日本を中心に－」『日本の美術 縄文土器 後期』第498号、至文堂、87-98頁
- 石田由紀子 2008「北白川C式から中津式へ－縄文原体からの検討－」『関西の縄文中期末土器－北白川C式とその周辺－発表要旨集』第9回関西縄文文化研究会、49-60頁
- 石田由紀子 2012「縄文原体からみた西日本縄文時代後期前葉の社会構造変化」『関西縄文時代研究の新展開』関西縄文論集3、関西縄文文化研究会、93-105頁
- 石田由紀子 2014「縄文原体からみた土器型式変化とその背景」『月刊 考古学ジャーナル』第660号、16-20頁
- 植田 真 2012「山内清男『縄文講義ノート』解題」『縄文時代』第23号、163-172頁
- 植田 真 2013「縄文土器と縄文原体」『東京都文京区林町遺跡第3地区』文京区教育委員会、36-37頁
- 植田 真 2014「総論 縄文原体再考」『月刊 考古学ジャーナル』第660号、3-4頁
- 植田真ほか 2015「縄文施文研究のための3次元計測技術」『日本考古学協会第81回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、38-39頁
- 植田 真 2020「縄文原体記号表記における山内式略記法の課題と試論」『國學院大學博物館研究報告』第36輯、國學院大學博物館、83-94頁
- 植田 真 2022a「加曾利E式土器に伴う組縄縄文について」『縄文時代』第33号、縄文時代文化研究会、103-121頁
- 植田 真 2022b「組縄縄文の文様と原体について」『モノ・構造・社会の考古学－今福利恵博士追悼論文集－』今福利恵博士追悼論文集刊行委員会、115-125頁
- 上野謹五郎 1938「土器の縄紋」『科学』第8巻第4号、165-169頁
- 大貫静夫 2023「山内清男の「縄紋」とアフリカの縄文」春成秀爾編『何が歴史を動かしたのか』第1巻 自然史と旧石器・縄文考古学、雄山閣、289-300頁
- 大村 裕 1993a「ある学史の一断面－『日本先史土器の縄紋』の刊行と塚田光」『下総考古学』13、下総考古学研究会、31-49頁
- 大村 裕 1993b「解題」『下総考古学』13、下総考古学研究会、63-67頁
- 大村 裕 1994「『縄紋』と『縄文』－山内清男はなぜ「縄紋」にこだわったのか？」『考古学研究』第41巻第2号、考古学研究会、102-110頁
- 大村 裕 2022a「山内清男の方法論－山内論文の読み方－」『早稲田會津八一記念博物館 研究紀要』第23号、早稲田大学會津八一記念博物館、33-44頁
- 大村 裕 2022b「I. 山内清男の「縄紋」研究について」『続 日本先史考古学史の基礎研究－山内清男の学問とその周辺の人々－』六一書房、1-23頁
- 大村 裕 2022c「IX. 山内清男はW・E・ニコルソン「北部ナイジェリア、ソコト地方の焼き物師」(『MAN』29巻 1929年3月号)をどう評価していたのか？」『続 日本先史考古学史の基礎研究－山内清男の学問とその周辺の人々－』六一書房、173-186頁
- 岡田憲一 2008「近畿地方最後の縄の系譜－縄文時代後期における縄文原体の転換背景－」『文化財学としての考古学』泉拓良先生還暦記念事業会、159-172頁
- 岡田憲一 2010「縄文原体」千葉豊編『西日本の縄文土器 後期』真陽社、234-238頁
- 岡本東三 2021「遺されしモノへの想い－山内清男資料の顛末記－」谷川遼編『山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学』早稲田大学會津八一記念博物館、16-20頁
- 岡本東三 2022「山内清男『論文集』・『博士論文』刊行とその後」『早稲田會津八一記念博物館 研究紀要』第23号、早稲田大学會津八一記念博物館、15-24頁
- 尾閔清子 1996『縄文の衣』学生社
- 尾閔清子 2012『縄文の布』雄山閣
- 尾閔清子 2018『縄文の布－日本列島布文化の起源と特質－【増補版】』雄山閣
- 春日井恒・近藤大典 1999「縄巻縄文原体の復原-船元IV式に施される特殊縄文-」『美濃の考古学』第3号、美濃の考古学刊行会、45-52頁
- 可児通宏 1979「縄文土器の技法」『世界陶磁全集1 日本原始』小学館、255-259頁
- 可児通宏 2004「文様・施文具・施文法」『月刊 考古学ジャーナル』第523号、3-4頁
- 可児通宏 2008a「縄文の施文原体と文様」小林達雄編『総覧 縄文土器』アム・プロモーション、965-980頁
- 可児通宏 2008b「押型文土器の施文原体と文様」小林達雄編『総覧 縄文土器』アム・プロモーション、985-994頁
- 木村啓章・上阪航 2014「擬縄文・刻みからみた施文方法」『京都市一乗寺向畠遺跡出土 縄文時代資料－考察編－』京都大学大学院文学研究科考古学研究室、91-100頁
- 京都大学大学院文学研究科考古学研究室 2013『京都市一乗寺向畠遺跡出土 縄文時代資料－資料編－』京都大学大学院文学研究科考古学研究室
- 甲野 勇 1953『縄文土器のはなし』世界社

- 小葉一夫 2005「縄素材からの照射－縄と縄文の間で－」『貝塚』60、1-16頁
- 小葉一夫 2008「なわと縄文」小杉康・谷口康浩・西田康民・水ノ江和同・矢野健一編『縄文時代の考古学7 土器を読み取る－縄文土器の情報－』同成社、73-84頁
- 小林達雄 1978「縄文土器の名称と正体」小林達雄編『日本の美術6 縄文土器』第145号、20-21頁
- 小林達雄 2001「紐を手繕りて縄文世界－縄文時代における紐・糸・縄・綱－」『考古学の学際的研究-濱田青陵賞受賞者記念論集 I』岸和田市・岸和田市教育委員会、30-62頁
- 佐藤達夫 1974「学史上における山内清男の業績」『日本考古学選集21山内清男』築地書館、2-11頁
- 佐原 真 1956「土器面における横位紋様の施紋方向」『石器時代』第3号（同 2008『縄紋土器と弥生土器』学生社、158-176頁、再録に拠る）
- 佐原 真 1981「縄文施文法入門」野口義磨編『縄文土器大成』3 講談社、162-167頁
- 佐原 真 1984「山内清男論」加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文文化の研究』第10巻 縄文時代研究史、雄山閣、232-240頁
- 篠原和大 1994「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号、東京大学文学部考古学研究室、169-207頁
- 杉山壽榮男 1942『日本原始織維工藝史(原始篇・土俗篇)』雄山閣
- 鈴木三男 2017「鳥浜貝塚から半世紀－さらにわかった！縄文人の植物利用－」工藤雄一郎編『さらにわかった！縄文人の植物利用』新泉社、182-199頁
- 鈴木素行 2014「コードー縄文原体の共有関係－」『月刊 考古学ジャーナル』第660号、10-15頁
- 鈴木保彦編 2000「山内清男 縄文講義ノート－於：東京大学理学部人類学教室（昭和28～29年）－」『縄文時代』第11号、131-206頁
- 瀬口眞司 2016『琵琶湖に眠る縄文文化 粟津湖底遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」107、新泉社、35-38頁
- 芹沢長介 1980「山内清男著『日本先史土器の縄紋』」『考古學雜誌』第66卷第1号、日本考古学会、118-121頁
- 高井健吾・水野慎士・植田真・高木隆司 2014「C Gによる回転縄文のシミュレーション」『月刊 考古学ジャーナル』第660号、25-29頁
- 高木隆司・植田真 2011「考古学パターンの数理解析－縄文土器文様について」『かたちショーレ2011@中山温泉-予稿集-』形の科学会
- 高野紗奈江 2017「変容する縄文原体とその背景－比叡山西南麓縄文遺跡群出土の後期土器を素材にして－」『考古学研究』第64巻第2号、40-60頁
- 高野紗奈江 2019a「縄文原体の素材選択に関する基礎的研究」『日本文化財科学会第36回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会第36回大会事務局、374-375頁
- 高野紗奈江 2019b「広域に分布する堀之内系土器の実態-近畿地方を中心に-」『東海からみた後期前葉土器群その2』東海縄文研究会 第8回例会予稿集、東海縄文研究会、55-81頁
- 高野紗奈江 2020「縄文原体の素材選択-実験考古学的手法に基づく基礎研究-」『縄文時代』第31号、縄文時代文化研究会、143-162頁
- 高野紗奈江 2021「縄文原体」阿部芳郎編『季刊考古学 土器研究が拓く新たな縄文社会』第155号、雄山閣、67-70頁
- 高野紗奈江・杉山淳司 2023「AIによる深層学習を活用した縄文の素材同定」『日本文化財科学会第40回記念大会 研究発表要旨集』日本文化財科学会第40回記念大会実行委員会事務局、94-95頁
- 高野紗奈江・千葉豊 2014「北部地区出土土器の縄文原体の復原」『京都市一乗寺向畑遺跡出土 縄文時代資料－考察編－』京都大学大学院文学研究科考古学研究室、81-90頁
- 高橋亜貴子 1992「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『東北文化論のための先史学論集』加藤稔先生還暦記念会、539-632頁
- 高橋龍三郎 2021「山内清男の考古学と早稲田」谷川遼編『山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学』早稲田大学會津八一記念博物館、8-11頁
- 谷井 鮎 1980「縄文時代（東日本）」『月刊 考古学ジャーナル臨時増刊号』第176巻、ニュー・サイエンス社、7-17頁
- 谷口康浩 2004「縄文の発生形態と施文原体」『月刊 考古学ジャーナル』第523号、5-9頁
- 千葉 豊 1998「後期縄文土器の施文手法ノート-近畿・瀬戸内地方の事例を中心に-」『古代吉備』第20集、4-10頁
- 千葉豊・高野紗奈江・上相英之 他 2023「ひかり拓本」、縄文土器に光をあてる」『日本文化財科学会第40回記念大会 研究発表要旨集』日本文化財科学会第40回記念大会実行委員会事務局、192-193頁
- 塙田 光 1980「山内清男著『日本先史土器の縄紋』の新刊紹介（芹沢長介）を読んで」『考古學雜誌』第66卷第3号、日本考古学会、331-340頁
- 塙田 光 1993「山内清男著『日本先史土器の縄紋』刊行の諸事情」『下総考古学』13、下総考古学研究会、60頁
- 土屋健作 2007「縄文原体の基礎的研究」『國學院雑誌』第108巻 第10号、35-56頁
- 土屋健作 2008「縄文原体の製作」小林達雄編『縄文土器』アム・プロモーション、981-984頁
- 土屋健作 2008「縄文時代草創期の土器施文“正反の合”出現の経緯とその意義」『縄文文化の胎動-予稿集-』津南シンポジウムIV、信濃川火焔街道連携協議会・新潟県・津南町教育委員会、20-26頁
- 土屋健作 2012「縄文原体を考える」小林達雄編『縄文土器を読む』アム・プロモーション、109-124頁
- 土屋健作 2014「縄文原体の選択、その時」『月刊 考古学ジャーナル』No. 660、21-24頁
- 時田太一郎 2019「円筒上層b式土器の地文縄文における原体結縫系痕の観察と検討」『斬新考古』第7号、北海道考古学研究所、

- 戸田哲也 1983「縄文」加藤晋平・小林達雄・藤本強共編『縄文文化の研究』第5巻 縄文土器Ⅲ、雄山閣、170-190頁
- 戸田哲也 2022「山内清男の細別型式について」『早稲田會津八一記念博物館 研究紀要』第23号、早稲田大学會津八一記念博物館、25-31頁
- 富井 真 2010「西日本縄文後期土器の文様」千葉豊編『西日本の縄文土器 後期』真陽社、16-18頁
- 中村 大・Simon Kaner 2008「縄文土器用語日英対照表-Japanese to English glossary of Jomon pottery-」小林達雄編『総覧 縄文土器』アム・プロモーション、1287-1294頁
- 中村五郎 1996「(付)共同備忘録」『画竜点睛』山内清男先生没後25年記念論集刊行会、13-14頁
- 中村五郎 2021「山内清男の足跡、聞書と共に」谷川遼編『山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学』早稲田大学會津八一記念博物館、12-15頁
- 中村五郎 2022「山内清男と先史考古学・人類学」『早稲田會津八一記念博物館 研究紀要』第23号、早稲田大学會津八一記念博物館、3-14頁
- 中村嘉男 1979「山内清男著『日本先史土器の縄紋』」『考古学研究』第26巻第3号、考古学研究会、85-89頁
- 名久井文明 1996「縄文時代の縄-実用的な縄の使用範囲-」『画竜点睛』山内先生没後25年記念論集刊行会、181-199頁
- 名久井文明 1999『樹皮の文化史』吉川弘文館
- 名久井文明 2011『樹皮の文化史』吉川弘文館（1999年版に、「初版『樹皮の文化史』その後」を追加して刊行）
- 名久井文明 2012『樹皮の採取、利用技術』『伝承された縄文技術 木の実・樹皮・木製品』吉川弘文館、104-156頁
- 名久井文明 2019『生活道具の民俗考古学 籠・履物・木割り楔・土器』吉川弘文館
- 布目順郎 1984「縄類と縄物の材質について」『鳥浜貝塚-縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査4-』福井県教育委員会・福井県若狭歴史民俗資料館、1-8頁
- 布目順郎 1992『目で見る織維の考古学』染織と生活社
- 藤井義範 2000「縄文原体の素材に関する実験考古学的考察」『筑波大学先史学・考古学研究』第11号 筑波大学歴史・人類学系、65-81頁
- 松田光太郎 2004「貝殻文の施文具」『月刊 考古学ジャーナル』第523号、14-17頁
- 松田光太郎 2008「貝殻文」小林達雄編『総覧 縄文土器』アム・プロモーション、995-1002頁
- 南久和・千葉豊 2003「一乗寺K式期の縄文の原体-一乗寺向畠町遺跡出土の注口土器の観察-」『石川考古学研究会会誌』第46号、59-66頁
- 宮原俊一 2009「回転施文の特質から導く縄紋の比較・同定試論」『日々の考古学2』東海大学考古学研究室、173-188頁
- 宮原俊一 2014「同一原体による縄文」『月刊 考古学ジャーナル』No. 660、5-9頁
- 柳浦俊一 2014「1. 貝類による土器の器面調整と施文」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集 第13集、島根県古代文化センター、133-154頁
- 山内清男 1930「斜行縄紋に関する二三の観察」『史前学雑誌』第2巻 第3号、187-199頁（『山内清男・先史考古学論文集・第五冊』先史考古学会、1967年、213-224頁、再録に拠る）
- 山内清男 1935「古式縄紋土器研究最近の情勢」『ドルメン』第4巻 第1号、36-44頁（『山内清男・先史考古学論文集・第二冊』、先史考古学会、1967年、85-96頁、再録に拠る）
- 山内清男 1937「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』第1巻 第1号、29-32頁
- 山内清男 1958「縄紋土器の技法」『世界陶磁全集』第1巻 河出書房、278-282頁（『山内清男・先史考古学論文集・第五冊』先史考古学会、1967年、225-232頁、再録に拠る）
- 山内清男 1964「縄紋式土器・総論」山内清男・甲野勇・江坂輝弥編『日本原始美術1』講談社、148-158頁（『山内清男・先史考古学論文集・新第四集』先史考古学会、1972年、145-183頁、再録に拠る）
- 山内清男 1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会
- 山内先生没後25年記念論集刊行会 1996『画龍点睛-山内清男先生没後25年記念論集-』山内先生没後25年記念論集刊行会
- 山内ひみ子 2021「思い出の中から-父の宝もの-」谷川遼編『山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学』早稲田大学會津八一記念博物館、6-7頁
- Morse E.S. 1879 *Shell Mounds of Omori*, Memoirs of the Science Department, University of Tokio
- Tatsuo Kobayashi(ed.Simon Kaner with Oki Nakamura) 2004 *Jomon Reflections Forager life and culture in the prehistoric Japanese archipelago*, Oxbow Books